

## 帰国生の社会科の基礎学力（３）

一柳 武, 小澤一郎, 櫻井道夫, 田中暁龍, 町田隆吉

### 1. はじめに

### 2. 検査対象生徒の状況

### 3. 検査結果とその診断

＜地理的分野＞

＜歴史的分野＞

＜公民的分野＞

＜帰国生の社会科の基礎学力の伸長＞

### 4. おわりに

付 学力テスト問題

### 1. はじめに

いわゆる帰国生は、帰国に当たってさまざまな不安を抱えており、中でも、「理科、社会、算数などの学習不足」をその内容として答えている者が多いことは、すでに報告されている<sup>1)</sup>。特に、社会科学学習は最も帰国生にとっての不得意科目とされており、中学校以上の場合には、それがより顕著になってくると考えられる<sup>2)</sup>。

こうした点に鑑みて、われわれはかつて本校『研究紀要』第9集・第13集の中で、帰国生の、中学校段階での社会科の基礎学力について考察を試み、次のような点を指摘しておいた<sup>3)</sup>。

- 1 現地校出身者よりも日本人学校出身者の方が概ね知識・理解においては優位である。
- 2 歴史分野の知識・理解については、地理・公民の2分野のそれよりも概して低い。日本史よりも、世界史の内容の知識・理解の方が優位である。
- 3 歴史は全体として低レベルにありながらも、現地校出身者に社会的思考・判断や社会的事象に対する関心・態度に優れている点が見出せる。また、地理は社会的思考・判断は全国平均を大きく上回っている。
- 4 日本地理の理解が不十分であり、地図指導に重点をおくことが大切である。
- 5 公民分野では、政治の基本に関する理解が不十分である。

しかし、こうした特徴を捉える際、一方では、帰国生の社会科学力の測定それ自体が、非常に難しいということも再確認され、帰国生の、日本の教育課程の経験の長短や、帰国後の学力の伸長なども考慮する必要に迫られた。そこで本稿では、中学校段階のみならず、小学校段階での社会科の基礎学力がどの程度達成されているか、という調査を行うとともに、合せて次のような視点で、以

下のような考察を行うことにした。

- 1 中学校段階だけでなく小学校段階での社会科の基礎学力では、いかなる箇所が欠落しているか。
- 2 日本人学校出身者と現地校出身者の基礎学力ではどのような点が異なるか。
- 3 帰国生の、高校1年次と3年次における検査結果には、どのような伸びが見出されるか。

(1) 目的

帰国生の小学校・中学校段階での社会科の基礎学力を測り、指導の一助にする。

(2) 実施方法

教研式NRT「中学新1年社会 S形式 診断的学力検査」(以下、「中新S」と略す)、及び「高校新入生学力検査 社会」(以下、「高入V」と略す)を使用した(検査時間45分、末尾に資料として掲載)。この検査によって出された結果は、正答人数が総人数の中に占める割合である「通過率」というものが使われているが、本稿ではこれを「正答率」という言葉に置き換えて、以下、使用していきたい。

(3) 実施対象

平成元年度4月入学生(16期)54名。平成2年度4月入学生(17期)53名。平成3年度4月入学生(18期)34名。合計141名。

(4) 実施時期

16期生は、平成元年度4月及び平成3年度5月(平成3年度は「高入V」のみ)、17期生は平成2年度4月、18期生は平成3年度4月に、それぞれ実施した。

(田中)

注

- 1) 総務庁行政監察局編『帰国子女教育等の現状と問題点—総務庁の行政監察結果からみて—』p.82 以下参照(1985年)。
- 2) 『国際化時代の教育—帰国子女教育の課題と展望』p.104 以下参照(東京学芸大学海外子女教育センター 帰国子女教育問題研究プロジェクト著、創元社、1986年)。
- 3) 「本校における社会科の基礎学力」(『東京学芸大学附属高等学校大泉校舎研究紀要』第9集、1985年、p.31以下参照)。「本校における社会科の基礎学力(2)—中学校社会科3分野の学力到達度報告—」(『東京学芸大学附属高等学校大泉校舎研究紀要』第13集、1989年、p.67以下参照)。

## 2. 検査対象生徒の概況

今回の検査対象生徒は、平成元年度入学生(16期生)54人、平成2年度入学生(17期生)53人、平成3年度入学生(18期生)34人の、計141人である。今回の検査を分析に当たり、日本人学校出身者と現地校出身者の違いを見ているので、学校種別に人数(比率)を次に示す。

表1 学校種別人数(比率)

日本人学校出身者 42人(30%)	現地校出身者 99人(70%)
----------------------	--------------------

なお、ここで扱う日本人学校出身者と現地校出身者の意味は次に示す通りである。

- ・日本人学校出身者 … 入学直前の4年のうち2年以上、日本の教育課程(日本人学校含む)を履修した者。
- ・現地校出身者 …… 入学直前の4年のうち2年以上、現地校(インター・ナショナルスクールも含む)に在籍した者。(小澤)

### 3. 検査結果とその診断

#### <地理的分野>

##### (1) 出題内容

表2-1を見ると、「中新S」は日本地理に関する問題で、解答はすべて記号で答える方法を取っている。1は日本の国土と自然に関する正誤問題、2は農作物の生産地に関する選択肢の問題、3は水産業に関する選択肢の問題、4は農業に関する統計資料の読み取り問題、5は工業に関する統計資料の読み取り問題である。

表2-2は、「高入V」の問題で、日本地理および世界地理から構成されている。「中新S」同様、解答はすべて記号で答える。1は日本地図の中で示された8地域の農業の特色を読み取る問題である。2は日本の工業に関する統計資料の読み取りの問題で、そのうち2-1は工業業種名、2-2は輸入資源名をそれぞれ答える。また、2-3は日本の工業の特徴の正誤問題である。3はヨーロッパ地誌の問題で、3-1は、地図を用いてヨーロッパと日本の位置関係の読み取り、3-2は同じく地図を用いて本初子午線の読み取り、3-3は、地図上の国々から、共同体の組織名を選択する。3-4は、日本との貿易グラフから、国名の判断およびその位置の読み取り問題である。4は、文章から国名の判別をする問題である。5は、気候グラフ(雨温図)からその特徴の読み取りおよび農作物との関係把握を行う問題である。

##### (2) 検査結果

##### a 全国標準との比較

表2-1を見ると、「中新S」の問題では、全体的には全国平均を上回っている。全国平均を大きく下回った問題はただ一つだけで、4-オの農業人口に関する問題で、問題中の統計資料からだけでは判断できず、他の要素(日本の総人口の数値)を知らないと解答できない問題である。その他に正答率の低かった問題は、1-カの海流名を答える問題、2-1、2-3、2-4、2-5 といった農作物の生産地に関する問題、3-2、3-4の漁業に関する問題である。選択肢の問題であるところから、特に二者択一ならば正答率が高く(例として問題5)、選択肢が多くなると正答率が

下がる（例として問題2，3）傾向もみられ、本当に理解しているかどうかは疑問の部分もみられる。海流名や農作物の生産地、都道府県名などの細かい地名の問題は、帰国生にとっては未学習の者が多く、正答率が低い傾向にある。

表3-1は、学力偏差値を見たものであるが、1，2段階のものが7%，3段階のものが30%と、両方を合計すると全体の約3分の1にも達し、学力差の大きいことがわかる。こうした点から考えると、小学校レベルの学習内容の理解について、必ずしも満足のいく結果で本校に入学しているとはいえない状況である。

表2-2は、「高入V」の結果であるが、全体的には全国平均を大幅に下回っている。本校の正答率が全国平均を上回った問題は、2-3と3-4のわずか2問にすぎない。全国平均も同じ傾向にあるが、世界地理に比べ、日本地理の正答率が低い。とくに正答率が低い問題は、1の地図上での地域の読み取りができていない点、2-3の日本の工業の特徴についての基礎知識の不足、3-1も地図を用いた問題で、ヨーロッパと日本の位置関係の把握ができないなど、前回の調査結果同様、地図を用いた問題の読み取りが低い。4では中国・アルゼンチンに対する認識不足、5では気候区についての基礎知識の不足があげられる。

表3-2は、学力偏差値を見たものだが、1，2段階で57%，3段階を含めると80%に達する。表3-1同様に学力差が大きい上に、山が下の方に位置していることがわかる。帰国生にとって、いかに日本の中学校レベルの学習が欠落しているかがわかる。

#### b 出身校別の比較

表2-1の「中新S」の結果を見ると、全体では日本人学校出身者も現地校出身者も全国平均を上回っている。日本人学校出身者は、4-オの問題を除いてすべて全国平均を上回っているが、現地校出身者は1-カ、2-1，2-4，2-5，4-オが全国平均を下回っている。日本人学校出身者と現地校出身者の正答率の差が大きい問題（正答率20%以上の差がある）は、1-ア，1-エ，2-1，2-3，2-5，3-3の問題で、とくに1，2など日本の地名に対する理解が不足していることがわかる。4-オは日本人学校出身者と現地校出身者の正答率が逆転している。表3-1の学力偏差値では、日本人学校出身者は5～3段階までであるが、現地校出身者は2，1段階にも分布し、出身学校種による学力差の大きいことがわかる。

表2-2の「高入V」の結果を見ると、全体では日本人学校出身者は全国平均を上回っているが、現地校出身者は全国平均を大幅に下回っており、出身学校種による違いが明瞭である。日本人学校出身者と現地校出身者の正答率の差が大きい問題（正答率20%以上の差がある）は、1-1，1-2，1-3，2-1，3-1，3-3，4-1，4-2，4-4，5-1，5-2であり、とくに1の日本地理の問題と5の気候グラフの読み取り問題の差が大きい。2-3は日本人学校出身者と現地校出身者の正答率が逆転している。表3-2の学力偏差値では、日本人学校出身者は、4段階に山があり、1段階には分布していない。現地校出身者は、5段階の分布がなく、山が2段階にあり、出身学校種による学力差が明瞭である。

（一柳）

表2-1 問題構成と正答率 (地理-中新S)

単位: %

番 号	内 容	日本人学校	現 地 校	全 体	全 国
1-ア	日本のまわりの海	91 ↑	62	70 ↑	57
エ	日本の川の特徴・長短	89 ↑	64	71	68
オ	最も広い関東平野	86 ↑	76 ↑	79 ↑	62
カ	日本海流と千島海流	64 ↑	48	53 ↑	40
ケ	日本の八大地方区分	91 ↑	85 ↑	87 ↑	68
2-1	甘薯の生産の多い県	55 ↑	30	38	37
2	米の生産の多い県	71 ↑	54 ↑	59 ↑	43
3	りんごの生産の多い県	64 ↑	36	45 ↑	32
4	キャベツの生産の多い県	36	29	31	30
5	みかんの生産の多い県	57 ↑	27	36	28
3-1	沖合漁業の特徴	48 ↑	48 ↑	48 ↑	35
2	沿岸漁業の特徴	43 ↑	29	33	25
3	養しよく漁業の特徴	98 ↑	66	75 ↑	64
4	遠洋漁業の特徴	62 ↑	50 ↑	53 ↑	34
4-イ	兼業農家数の変化	93 ↑	86 ↑	88 ↑	63
オ	農業人口の変化	45 ↓	53 ↓	50 ↓	67
カ	専業農家の減少	83 ↑	69	73 ↑	60
キ	農家人口の年齢層	95 ↑	87 ↑	90 ↑	64
ケ	農家人口の老・女性化	76 ↑	71	72 ↑	61
5-1	資料: 中小工場の製品	95 ↑	87 ↑	89 ↑	72
2	資料: 大工場の生産額	93 ↑	89 ↑	90 ↑	71
3	資料: 大工場の工業	93 ↑	88 ↑	89 ↑	70

↑印=正答率の全国平均より10%以上, 上回る。↓印=正答率の全国平均より10%以上, 下回る。

表2-2 問題構成と正答率 (地理-高入V)

単位: %

番 号	内 容	日本人学校	現 地 校	全 体	全 国
1-1	東海地方の農業	64	35 ↓	44 ↓	66
2	関東平野・台地の農業	60 ↑	27 ↓	37	43
3	中央高地・盆地の農業	74 ↑	39 ↓	50 ↓	61
4	越後平野の農業	38	36 ↓	37 ↓	47
2-1	工業地帯出荷額・機械	81	63 ↓	68	73
2	鉄鉱石の輸入相手国	74	57 ↓	62 ↓	79
3	日本の工業の特徴	17	32	28	25
3-1	択捉島の位置・緯度	50 ↑	22 ↓	31	34
2	本初子午線の位置	81	64	69	73
3	ECの加盟諸国の位置	83	62 ↓	68 ↓	87
4	西ドイツの位置と貿易	74 ↑	60	64	56
4-1	インド・産業と社会	93 ↑	61 ↓	70	76
2	中国・社会主義と工業	52	30 ↓	37 ↓	61
3	ブラジル・農業と工業	91	84	86	89
4	アルピンチン・農牧業	60 ↓	39 ↓	45 ↓	72
5	南ア・鉱業 人種差別	93	82	85	90
5-1A	西岸海洋性気候の特徴	50	21 ↓	30 ↓	49
1B	熱帯雨林気候の特徴	100	78 ↓	84	95
1C	モンスーン気候の特徴	91	66 ↓	73 ↓	84
2D	地中海性気候と農作物	52	23 ↓	32 ↓	55

↑印=正答率の全国平均より10%以上, 上回る。↓印=正答率の全国平均より10%以上, 下回る。

表3-1 出身学校別にみた学力偏差値5段階分布

(地理-中新S) 単位:人〔但し( )内は%〕

段階	偏差値	日本人学校	現 地 校	合 計
5	65～	14( 33)	10( 10)	24( 17)
4	55～64	21( 50)	43( 43)	64( 45)
3	45～54	7( 17)	35( 35)	42( 30)
2	35～44	( 0)	9( 9)	9( 6)
1	～34	( 0)	2( 2)	2( 1)
計		42(100)	99(100)	141(100)

表3-2 出身学校別にみた学力偏差値5段階分布

(地理-高入V) 単位:人〔但し( )内は%〕

段階	偏差値	日本人学校	現 地 校	合 計
5	65～	2( 5)	( 0)	2( 1)
4	55～64	17( 41)	8( 9)	25( 18)
3	45～54	14( 33)	19( 19)	33( 23)
2	35～44	9( 21)	49( 50)	58( 41)
1	～34	( 0)	23( 23)	23( 16)
計		42(100)	99(100)	141(100)

## ＜歴史的分野＞

## (1) 出題内容

「中新S」(歴史分野)の出題内容は、表2-3に示すように、日本史のみ7題31問からなる。これらの小問は、原始1、古代8、中世4、近世9、近代7、現代2という数から明らかなように、全時代から万遍なく出題されているが、小学校課程の歴史ということもあり、政治史もしくは文化史的内容が中心で、社会経済史的内容に乏しい。また対外関係にかかわる小問8題が含まれている。いずれも、時代・場所・人物・事件という日本史の基本的な知識・理解が問われており、教科書の内容から逸脱しているものはない。なお、7は全国平均の正答率が20%台という低い数値の小問3問を含んでいるが、これらは必ずしも内容的に難しいわけではない。おそらく、これらの正答率が低いのは、1つの小問が、問題文の内容から関係する地名を想起し、それを地図上から選ぶ問題と、さらに関係する人物を選ぶ問題との2問から構成され、共に正答しないと誤答として処理されていることによっているためと思われる。また、農地改革がいつの時代かを問う小問(11-3)のみ全国平均の正答率が10%という低い数値が示されているが、これも問題が難しいわけでは決してなく、おそらくは戦後史を学習する時間が十分確保されていないことに起因する結果であると考えられる。これらの間には、いずれも選択肢が用意されており、記号で答えることになっているので、無答ということはまず考えられない。したがって、解答の中に偶然の正答が含まれる可能性がないわけではない。したがって、以下のデータにも、その意味での誤差が含まれていると考えてよい。なお、先に触れたように、7と8のみ小問ごとに解答数が2つあり、ともに正答しないと誤答として処理

されるわけで、それゆえ、問題の難易度にもよるが、他の小問に比べて正答率が低くなる傾向にあることは否めない。

一方、「高入V」の内容構成に注目すると、6は和歌・狂歌をもとに歴史的事実を捉える問題、7は日本史と世界史の同時代的内容を捉える問題、8は日本史用語の説明文を選択する問題、9は歴史地図を扱った問題、10は近代政治・経済史の年表を扱った問題となっており、全部で5題20問から成り立っている。出題内容は時代を通して万遍なく出題されており、どれも時代・場所・事件といった基本的要素をおさえる出題形式である。また、出題の難易度も、人名・用語・地名など、いずれも教科書の記述範囲を逸脱しているものはほとんどないといえよう。他方、7-4「ドイツ帝国の成立時期」や10-2「年表・ワシントン会議」などは、全国平均でも正答率25%を割るものであり、標準学力検査の問題としてはやや適性を欠くように思われる。また、日本史と世界史のバランスに注目すると、7:3の割合で日本史の出題が中心であり、日本史との関連で世界史的分野の内容が出題されている。ただ、ヨーロッパや東アジアについての諸事象が、時間的経過のみで問われているので、いまひとつ工夫が欲しかった(表3-4)。

## (2) 検査結果

### a 全国標準との比較

表3-3に見られるように、「中新S」(歴史分野)における学力偏差5段階評価においては、5~3段階に83%(117名)、2~1段階に17%(24名)の生徒が分布している。ここで留意しなければならないことは、ここでの5段階ならびに偏差値が、小学校課程の社会科の歴史分野の内容について、あくまで中学1年生を対象としたデータに基づく数値であり、高校1年生を対象としたものではないという点である。このことをふまえた上で、今回の結果にのぞむとき、2~1段階に17%の生徒が分布している事実は、小学校の社会科(歴史分野)の知識・理解の側面に限られるものの、高校入学時の歴史分野の基礎学力という点で、必ずしも十分な状況にないことが知られる。

このことを、問題別の正答率を示した表2-3から、もう少し具体的に確認してみよう。7題31問中、全体的には全国平均をやや上回る割合での正答率を示しているが、そのうち10%を越えた小問は15問に過ぎない。くわえて全国平均を下回る3問(6-4、11-4、12-1)および全国平均を上回っているとはいえ、正答率が20%台の3問(7-1・3、11-3)をも含めて考えるとき、小学校の歴史分野の内容についてさえも、その基礎的知識・理解の側面で不十分な点が存在していることを指摘できる。総じて、各時代とその時代の特色ある歴史事項との結びつきや、ある歴史事項と他の事項や人物との結びつきを問われるような場合に、知識・理解の不十分さが目についた。また、出題形式によるところもあると思われるが、7のような歴史地図と組みあわさった複合問題での正答率の低さも気にかかる。

次に、表3-4を見てみよう。表3-4は、「高入V」(歴史分野)についての学力偏差値5段階評価の人数を集計したものである。これによると、4~3段階の評価の中にはほぼ6割近い者が集中しており、全国平均よりもやや低い傾向がうかがえる。このことは、5段階に位置するもの7名に対

し、1段階に位置するもの17名という数字がよく表してくれている。

そこでさらに、表2-4を見てみよう。表2-4は「高入V」（歴史分野）についての問題別正答率を表したものである。これを見ると、全体として、全国平均より10%以上、下回るものが20問のなかで9問にも及ぶとともに、全国平均より10%以上、上回るものは、「阿倍仲麻呂と唐」・「年表・ヒトラー」のわずか2問にすぎない。このように、概ね中学校段階での歴史分野についての基礎的知識・理解は低レベルにある。しかし、一方で、出題形式の特徴もあるが、歴史地図や年表を扱った問題については、わりと良い成績であるとともに、強いて言えば、近現代の内容について比較的成绩が良い。この後者の点については、すでに『研究紀要』第13集でも指摘のあったところである。一方、6～8までは、やや成績不良であり、これは和歌・狂歌といった題材を使用しているとともに、埴輪・似絵・蔵屋敷など、学習経験のないところが大きな要因となっていると思われる。また、7のように、日本史と世界史の同時代性などは理解が不十分と考えられる。このことは、全体の傾向として、各時代とそれを特色づける歴史的事項との結びつきが弱いということ、また一つの歴史的事項を他の事項と結びつける力が弱いということもいえよう。

#### **b 出身校別の比較**

日本人学校出身者は、小問が小学校課程の内容ということもあり、表2-3より明らかなように、すべての問で全国平均の正答率を上回った（そのうち1問（9-2）を除いて、いずれも全国平均より10%以上高い）。これは、検査対象が高校1年生であり、当然のことといえる。その一方で、現地校出身者は必ずしも同様の傾向を示していない。すなわち、全国平均の正答率を上回ったもの17問（そのうち10%を越えた小問はわずか7問）、等しかったもの2問、下回ったもの12問（そのうち10%以下のもの4問）という良いとはいえない結果となった。これは、帰国生のうち、とりわけ現地校出身者の場合には、小学校課程の歴史分野の基本的事項であっても、必ずしも十分な知識・理解をもちえていないことを意味している。

このことは、表3-3の5段階分布にも如実に現れており、日本人学校出身者の場合8割以上が5～4段階に集中しているのに対して、現地校出身者が3段階を中心に4～2段階に9割が集中しているといった具合で、1ランクないし2ランク低い結果を示していることとも符合する。

次に、ふたたび表2-3にたちかえて、とりわけ現地校出身者の正答率の低かった小問の内容にしぼって取り上げておきたい。このうち全国平均を10%以上も下回った小問は、6-4、8-4、11-4、12-1の4問であり、これにくわえて、正答率が10～20%台の7-1・3・5、11-3の3問があげられる。これらは、後に付した問題文より明らかなように、各時代とその時代の特色ある歴史事項との結びつきや、ある歴史事項とそれに関連する地図上の場所や人物との結びつきなどについて尋ねているものが主で、日本史の学習においては基本的事項に属するものといえてよいものばかりである。このような結果は、基本的事項に関する知識・理解の側面で、日本の教育課程の小・中学校段階における日本史の内容が未習であるか、もしくは個人的に学習したことがあったとしても極めて概括的な内容であったことによっていると推測される。したがって、これらの知識・理解



をどのように補充していくかが高校での社会科における最初の課題となる。

なお、付言すれば、日本人学校出身者において、50%を下回る正答率の小問(7-1・3, 11-3・4)の存在は、既習内容についても必ずしも確実な知識・理解となっていないことを示しており、むしろ上記の未習者よりも多くの問題をかかえているといつてよい。

次に、表3-4を見てみよう。「高入V」(歴史分野)の検査において出身学校別に学力偏差値をみると、日本人学校出身者は、5段階のうち、4から3に集中している。これに対して、現地校出身者の場合は、5段階の3から2に集中しており、日本の教育課程による学習経験の有無から生じる当然のズレが読み取れる。このことから、「高入V」についても、日本人学校出身者の方が優れた成績を修めていることが認められる。このことは、5段階に位置する7名のうち6名までが日本人学校出身者で占める一方、1段階に位置する17名の内16名までが現地校出身者であることが、よくあらわしてくれているだろう。

さらに、表2-4を用いて問題内容ごとに見ていこう。まず、日本人学校出身者は、「年表・八幡製鉄所開業」のみが、全国平均より10%以上、下回っているだけであるが、現地校出身者の場合、「年表・ヒトラー」のみが全国平均より10%以上、上回るのみで、ほか10問すべてが10%以上、下回っているというように、かなり対照的である。日本人学校出身者が6や7について、比較的正答率が高いのは、ある程度日本の教育課程に精通しており、和歌や狂歌の学習経験があること、日本史と世界史との同時代性を捉えていることがわかる。一方、現地校出身者の場合、6～8について、全体的に成績不良であり、和歌・狂歌などの日本史教材、埴輪・似絵・蔵屋敷などの日本史用語に対して、未学習・未経験であることがよくあらわれている。また、7のように、日本史と世界史の同時代性などについても理解が不十分であることが読み取れる。

(田中、町田)

表3-3 出身学校別にみた学力偏差値5段階分布

(歴史-中新S) 単位:人〔但し( )内は%〕

段階	偏差値	日本人学校	現地校	合計
5	65～	20(48)	6(6)	26(18)
4	55～64	15(36)	28(28)	43(31)
3	45～54	6(14)	42(43)	48(34)
2	35～44	1(2)	22(22)	23(16)
1	～34	0(0)	1(1)	1(1)
計		42(100)	99(100)	141(100)

表3-4 出身学校別にみた学力偏差値5段階分布

(歴史-高入V) 単位:人〔但し( )内は%〕

段階	偏差値	日本人学校	現地校	合計
5	65～	6(14)	1(1)	7(5)
4	55～64	17(41)	12(12)	29(21)
3	45～54	12(29)	33(33)	45(32)
2	35～44	6(14)	37(38)	43(30)
1	～34	1(2)	16(16)	17(12)
計		42(100)	99(100)	141(100)

表2-3 問題構成と正答率 (歴史-中新S)

単位: %

番 号	内 容	日本人学校	現 地 校	合 計	全 国
6-1	古事記・神話や物語	74 ↑	61	65	62
2	薩摩藩の内容	98 ↑	82	87 ↑	73
3	源氏物語・かな文字	74 ↑	62 ↓	65 ↓	46
4	長篠の戦い・鉄砲隊	69 ↑	43 ↓	51	57
7-1	壇ノ浦・源義経	41 ↑	20	26	20
2	黒船・浦賀・ペリー	74 ↑	44	53 ↑	35
3	島原の乱・天草四郎	48 ↑	14	24	22
4	法隆寺・聖徳太子	76 ↑	43	53	44
5	鹿児島・ザビエル	64 ↑	28	39 ↑	25
8-1	伊能忠敬・日本地図	79 ↑	41	52 ↑	41
2	紫式部・源氏物語	91 ↑	83 ↑	85 ↑	57
3	伊藤博文・最初の総理	88 ↑	59	67 ↑	56
4	聖徳天皇・東大寺	79 ↑	37 ↓	50	47
5	足利義満・金閣	83 ↑	41	54	46
9-1	米作の遺跡・登呂	100 ↑	77	84	76
2	豊臣秀吉・大阪築城	83	83	83	78
3	八幡製鉄所の設置	100 ↑	80	86 ↑	73
4	サンフランシスコ条約	76 ↑	64 ↑	67 ↑	54
10-1	日独伊三国軍事同盟	69 ↑	58 ↑	61 ↑	24
2	中国からの文化吸収	95 ↑	87 ↑	89 ↑	76
3	明治憲法とドイツ	83 ↑	47 ↑	57 ↑	34
4	鎖国とオランダ	93 ↑	66 ↑	74 ↑	54
11-1	刀狩・安土桃山時代	71 ↑	33	45	39
2	古墳・大和時代	93 ↑	60	70	62
3	農地改革・昭和時代	45 ↑	11	21 ↑	10
4	武士の発生・平安時代	47 ↑	17 ↓	26	29
5	四民平等・明治時代	76 ↑	55	61 ↑	49
12-1	自由民権・板垣退助	91 ↑	51 ↓	62	70
2	解体新書・杉田玄白	95 ↑	79	84	77
3	参勤交代・徳川家光	67 ↑	36	45	40
4	元寇・北条時宗	79 ↑	36	49	44

↑印=正答率の全国平均より10%以上、上回る。↓印=正答率の全国平均より10%以上、下回る。

表2-4 問題構成と正答率 (歴史-高入V)

単位: %

番 号	内 容	日本人学校	現 地 校	合 計	全 国
6-1	応仁の乱と京都の荒廃	69 ↑	51	56	50
2	摂関政治と藤原道長	71	35 ↓	46 ↓	62
3	阿部仲麻呂と唐	69 ↑	49	55 ↑	42
4	ペリー来航と世情	86 ↑	51 ↓	61 ↓	76
5	18世紀後半・寛政の改革	36	33	34	38
7-1	ゲルマン民族移動時期	64	37 ↓	45 ↓	56
2	倭寇の侵襲時期	57 ↑	16 ↓	28	32
3	ルターの宗教改革	40	19 ↓	26 ↓	40
4	ドイツ帝国の成立時期	31	22	25	24
5	ロシア革命の勃発時期	60 ↑	40	46	48
8-1	壇輪の特徴と種類	71	67	68	76
2	似絵・「源頼朝」	57	42 ↓	47 ↓	64
3	蔵屋敷の役割	62	44 ↓	50 ↓	69
9-1	地図・函館と登呂遺跡	74	47 ↓	55 ↓	65
2	地図・京都と関ヶ原	52	49	50	49
3	地図・下関と鹿児島	55 ↑	47	49	42
10-1	年表・八幡製鉄所開業	64 ↓	47 ↓	53 ↓	74
2	年表・ワシントン会議	19	14	16	22
3	年表・ヒトラーの独裁	62 ↑	71 ↓	68 ↑	51
4	年表・工業と公害発生	76	58 ↓	63	71

↑印=正答率の全国平均より10%以上、上回る。↓印=正答率の全国平均より10%以上、下回る。

## ＜公民的分野＞

### (1) 出題内容

表2-5に見られるように出題内容は小学校で学ぶ内容から構成され、立法・行政・司法・国民の権利義務・選挙・政党・おもな国際機関・おもな国の位置と貿易などが出題されている。難しいと思われる漢字には振り仮名が付されているので、本校のような海外帰国生であっても問題文の読解には困難は感じられない水準であり、正答率は内容による難易と類推することができる。

13の設問は「国務大臣を任命する」行為が内閣と内閣総理大臣のいずれの権限に属するかを問う設問であり、これに対する理解が正誤の分岐点である。14は政治活動と経済活動の差異に関する出題である。その他の出題も、問題に対する解答方法を誤まらなければ、内容の水準が小学校段階であるので高正答率が期待される出題である。

表2-6は中学校公民分野からの出題内容を示している。一部に振り仮名が付されているが、内容・表現・設問のしかたなどは日本の中学校水準であり、日本または日本人学校での中学校段階の学習が欠落している帰国生にとっては正答率の低下が予想される内容である。

11は経済に関する出題である。1は家計・政府・企業の経済主体間の物・貨幣の流れを選出させる問題で用語の正しい理解が問われる問題である。2は財政投融资の原資について問う出題であり、財政投融资計画が正確に理解されていない場合には、難かしく感じられる問題である。3は正語を選ばせる問題であるが為替相場についての理解を問う問題である。

12は日本国憲法と日本の政治に関する、いわゆる、政治の問題である。1、2は日本国憲法の保障する基本的人権に関する出題であるが、日本国憲法を読みなれていない生徒にとっては若干解答しにくい問題である。3は知識を問うもので覚えていなければ正解が得られない。4は三権分立についての理解を、5は国会の種類についての知識を問うものでテストで鍛えられた生徒には有利である。6、7、8は知識を問う問題で知っていなければ正解が得られない問題で、学習の有無がそのまま正答率に反映することが予想される内容である。

### (2) 検査結果

#### a 全国標準と比較

小学校段階における公民分野の問題に対する正答率は、18-1の安全保障理事会の問題に対する現地校の正答率25%が全国標準の27%を下回った一つを除いて、すべての問題に対して、日本人学校・現地校の正答率は全国標準を上回った。中学校1年入学当初に行う、小学校レベルの問題を高校1年入学当初にテストしたことから、ある程度の予想は出来たが、本校生にあっては、小学校段階における公民分野の知識・理解はほぼ全国の中学入学時の水準に達していることが分る。

これを問題別にみるといくつかの特徴を知ることができるが、全体的にみれば、全国標準を下回った問題はなく、日本人学校・現地校の出身校別に格差がみられるものの、ほぼ小学校での学習領域については理解・知識を持っており、大きな欠落は見あたらない。

しかし、中学校公民分野については、かなりの学習分野の欠落がみられる。全体としては、全国

標準を10%以上下回った問題が17問中11問、約65%を占め、10%以上上回った問題が17問中1問、約6%と顕著な対照をみせている。唯一、全国標準を10%以上、上回っていたのは12-8-Bの地方自治と国との関係についての問題である。本校は入学試験科目に社会科は課していないので、社会科に関する受験準備がなされる可能性は、都立高受験を考慮してもそれ程高くなく、公民分野の内容履修の有無がそのまま正答率にあらわれているとみることができる。

#### b 出身校別の比較

公民分野に関しては出身校別の正答率には、はっきりした格差がみられる。「中新S」公民分野については、表3-5から分るように、日本人学校出身者は5段階分布では4, 5段階に集中している。また、表2-5にみられるように、日本人学校出身者の正答率は16-5の問題を例外として、他の問題はすべて全国標準を10%以上上回っている。16-5は添付の問題からも分るように、「国民は自分の好きな場所で野球をすることができる」という文章が国民の権利・義務を述べたものか、そのどちらでもないかを問う問題で、高校生レベルの思考でやや考え過ぎた結果が唯一全国標準を10%下回る正答率になったものと推察される。

「中新S」公民分野の現地校出身者の正答は、表3-5にみられるように、4段階に70%が集中し、5, 3段階に10%台の数値が出ている。1段階の1人は、日本語にかなりの未習熟がみられた生徒であったので例外と考えるべきである。現地校出身者の正答率で全国標準を10%以上、上回った問題は27問中20問で74%を占めている。また、全国標準を10%以上、下回った問題はなく、前述18-1の問題の正答率が全国標準を2%下回った。18-1の問題は添付問題から分るように、国連の安全保障理事会における常任理事国五ヶ国の拒否権について問う問題である。日本の小学校では当然に学習する内容であるが、現地校で学習したか否かについては疑問の残る所であり、日本の小学6年を履修しないで外国へ行った生徒にとっては未学習領域として残る分野である。

「高入V」の公民分野の問題に対する正答率は、表2-6にみるようになり低くなっている。日本人学校出身者の正答率中、全国標準を10%以上、上回った問題が3問、同じく10%下回った問題が1問で、残りの13問は全国標準の数値±10%内に入っており、これらの生徒はほぼ中学校段階の内容を修得してきているものと考えられる。このことは、表3-6からも知ることができる。表3-6によれば、3段階に位置するものが約半分、4段階に4分の1、5, 2段階に10%台の生徒が分布している。

これに対し、現地校出身者の正答率はかなり低い。表2-6にみられるように全国標準を上回った問題は17問中3問で、他はすべて全国標準を下回っている。下回った14問中、30%以上下回った問題1, 20%以上下回った問題7, 10%以上下回った問題4とその落差の大きい点が目立つ。これは表3-6の数値でも見ることができる。すなわち、2段階に属する者が約半分弱、3段階に約4分の1、1段階に約2割、5, 4段階に位置する生徒は数%にすぎない。5段階分布を日本人学校・現地校で比較すると、5, 4段階では日本人学校出身は現地校出身の3倍、3段階では同じく2倍となっている。2段階では現地校出身者の占める割合は日本人学校出身者の割合の約3倍となっ

表2-5 問題構成と正答率 (公民-中新V)

単位: %

番 号	内 容	日本人学校	現 地 校	全 体	全 国
13-1-ア	国会・総理大臣の指名	79 ↑	65 ↑	69 ↑	44
13-1-ウ	国会・法律の制定	74 ↑	49	57 ↑	44
13-2-エ	内閣・政治を行う	69 ↑	58	61 ↑	50
13-2-オ	内閣・予算案の作成	48 ↑	37	40	32
13-3-イ	裁判所・違憲立法審査	86 ↑	77 ↑	79 ↑	63
13-3-カ	裁判所・権利を守る	99 ↑	92	94 ↑	83
14-イ	政治・社会保障	93 ↑	95 ↑	94 ↑	74
14-オ	政治・公害の防止	100 ↑	99 ↑	99 ↑	88
14-キ	政治・交通安全対策	99 ↑	99 ↑	99 ↑	89
15-エ	日本国憲法の三大原則	100 ↑	73	81	72
16-1	権利・参政権	99 ↑	91 ↑	93 ↑	79
16-2	義務・納税	99 ↑	94 ↑	95 ↑	81
16-3	権利・教育を受ける	64 ↑	62 ↑	62 ↑	39
16-4	権利・職業選択の自由	90 ↑	90 ↑	90 ↑	66
16-5	権利でも義務でもない	74 ↓	91	86	85
17-1	国会議員の選挙	88 ↑	85 ↑	86 ↑	54
17-2	政治と選挙	95 ↑	93 ↑	94 ↑	65
17-3	政党の結成	99 ↑	78 ↑	84 ↑	49
17-4	世論の形成	99 ↑	85 ↑	89 ↑	57
18-1	安全保障理事会の役割	45 ↑	25	31	27
18-2	ユネスコの役割	67 ↑	46 ↑	52 ↑	32
18-3	ユニセフの働き	86 ↑	75 ↑	78 ↑	55
19-1	アメリカの位置と貿易	95 ↑	99 ↑	98 ↑	70
19-2	中国の位置と貿易	100 ↑	97 ↑	98 ↑	61
19-3	ソ連の位置と日ソ関係	100 ↑	95 ↑	96 ↑	60
19-4	オーストラリアの位置	99 ↑	94 ↑	95 ↑	64
19-5	サウジアラビアの位置	100 ↑	96 ↑	97 ↑	66

↑印=正答率の全国平均より10%以上, 上回る。↓印=正答率の全国平均より10%以上, 下回る。

表2-6 問題構成と正答率 (公民-高入V)

単位: %

番 号	内 容	日本人学校	現 地 校	全 体	全 国
11-1-A	経済活動・政府	60	34 ↓	42 ↓	57
11-1-B	経済活動・企業	62	39 ↓	46 ↓	60
11-1-C	経済活動・企業	60	52	60	63
11-1-D	経済活動・家計	70	45 ↓	50 ↓	67
11-2-	財政投融资と郵便貯金	36	17 ↓	23 ↓	35
11-3-A	円安と円高・為替相場	86	69 ↓	74 ↓	91
11-3-B	円安と円高・為替相場	83 ↑	72	75	67
12-1-	自由権・学問・信教等	95	78	83	87
12-2-	20世紀的権利・社会権	60	28 ↓	38 ↓	57
12-3-	参院と知事の被選挙権	57	37 ↓	43 ↓	56
12-4-	違憲立法審査権と三権	74	47 ↓	55 ↓	71
12-5-A	臨時会の召集	43	34 ↓	37	45
12-5-B	特別会の召集期限	31 ↓	27 ↓	28 ↓	50
12-6-	衆議院の優越と改憲	38 ↑	28	31	27
12-7-	三審制度・上告	71	41 ↓	50 ↓	76
12-8-A	地方議会への解散請求	33	29 ↓	31 ↓	43
12-8-B	地方自治と国との関係	83 ↑	52 ↑	61 ↑	28

↑印=正答率の全国平均より10%以上, 上回る。↓印=正答率の全国平均より10%以上, 下回る。

ている。1段階では日本人学校出身者の1％に対し、現地校出身者の占める割合は20％である。

このことから、現地校出身者の多くは、中学校公民分野については、その内容領域の大部分が未学習であるか、きわめて概略的な理解に留まっているとみることができる。

(櫻井)

表3-5 出身学校別にみた学力偏差値5段階分布

(公民-中新S) 単位:人〔但し( )内は％〕

段階	偏差値	日本人学校	現地校	合計
5	65～	16( 38)	14( 14)	30( 21)
4	55～64	24( 57)	70( 71)	94( 67)
3	45～54	2( 5)	12( 12)	14( 10)
2	35～44	0( 0)	2( 2)	2( 1)
1	～34	0( 0)	1( 1)	1( 1)
計		42(100)	99(100)	141(100)

表3-6 出身学校別にみた学力偏差値5段階分布

(公民-高入V) 単位:人〔但し( )内は％〕

段階	偏差値	日本人学校	現地校	合計
5	65～	4( 10)	3( 3)	7( 5)
4	55～64	10( 24)	8( 8)	18( 13)
3	45～54	20( 48)	23( 23)	43( 30)
2	35～44	7( 17)	44( 44)	51( 36)
1	～34	1( 2)	21( 21)	22( 16)
計		42(100)	99(100)	141(100)

#### ＜帰国生の社会科の基礎学力の伸長＞

これまでの調査では、帰国生は日本の教育課程による社会科の基礎学力の欠落する生徒が多い点を報告してきた。そこで今回は、16期生54名を対象に、高校入学後の2年間の学習の結果、基礎学力がどのように変化するかと比較考察を試みた。調査対象が少なく、個人差が大きいため、一般化するのは難しいが、おおまかな傾向がとらえられればと思う。

調査方法は、高校入学時に行ったものと同じ基礎学力調査問題「高入V」を、3年次の始めに行い、分野別、問題別、出身校種別、個人別に比較考察を行った。

16期は、文部省の研究開発指定を受けた関係で、1年次は「現代社会」に代え、「日本社会」「国際社会」各3単位必修で学習を行った。2年次は「日本史」「世界史」「地理」「倫理・政経」の4科目から1科目選択必修各4単位である。

分野別の正答率では、地理は1年次53％から3年次60％(全国平均66％)、歴史は1年次44％から3年次47％(全国平均53％)、公民は1年次47％から3年次54％(全国平均58％)であった。それぞれの分野ともわずかながら正答率の上昇がみられる。しかし、全国平均と比較を行えば3年次においてもはるかに下回っており、依然厳しい状況である。

表4-1、4-2、4-3はそれぞれの分野別、問題別、出身校種別に1年次と3年次の比較を行

ったものである。問題別には、3年次の正答率が1年次より低下している問題もいくつかみられる。今回は、問題別に詳細な分析を行うことはできないが、その要因の1つとして、出身校種別に1年次と3年次を比較すると、日本人学校出身者の正答率の伸びがわずかもしくは下降傾向にある点があげられる。とくに歴史的分野、公民的分野ともに日本人学校出身者は正答率を下げている問題が多い。一方、現地校出身者の正答率の伸びは、なかには下降した問題もあるが、全体的には上昇傾向にある。

表-5は、高校1年次と3年次における学力偏差値5段階評定の比較を行った。1年次に比べ、3年次はどの分野とも1段階が減少し、3段階以上が増加している。これは、社会科の基礎学力に乏しい生徒たちの底上げがなされた感じである。しかし、依然として上と下の学力差は大きい。

表-6は、とくに学習の伸びの著しい生徒および伸びの下降した生徒について取り上げてみた。伸びの著しい生徒とは、2つの分野で正答率が20%以上上昇（表の中では○印が2つ以上）したか、1つの分野で正答率が40%以上上昇（表中◎印）したものを上げた結果、54名中9名が該当した。逆に伸びの下降した生徒とは、1つの分野で正答率が20%以上下降（表中▲印）したものを上げた結果、54名中7名が該当した。

上昇組をみると、1年次の学力偏差値5段階評定が1ないし2段階のものが大半を占めており、低レベルからの脱出である。しかし、全国平均からみれば、必ずしも十分といえる状況ではない。また、上昇組には圧倒的に現地校出身者が多い。現地校出身者は、日本の中学校の教育課程による学習未経験のものが多く点を考えれば、本校での必修および選択科目を含めた2年間の学習により、欠落部分の補いが多少でも成されたと考えたい。なかには、日本語の言語的ハンディがあり、入学時にはほとんど日本語が理解できなかったが、全国平均にはおよそほど遠いものの、その後の本人の努力により、このグループに入ってきた点は喜ばしい。とくに3分野ともに○印のついたHは、社会科の学習の取り組みだけでなく学校生活すべてに積極的な生徒である。このほかにも○印が1つだけついたものは、地理で6人、歴史で4人、公民で6人、合計16人に上るが、出身校種別では日本人学校3人、現地校13人と、圧倒的に現地校出身者の比率が高い。

下降組はどちらかといえば学力偏差値5段階評定が5ないし4段階といった高いレベルからの下降がみられる。なかには3や2段階からさらに下へと下降している。Jを除いてKからOの5人は▲印はつかなかったが、他分野でも正答率が下降している。下降組にはどちらかといえば日本人学校出身者の比率が高い。2年次の選択科目との関連でみると、選択科目と同じ分野での下降のみられる最悪のパターンは、NとOの2名である。下降組に共通する点は、入学後の社会科に対する学習意欲が今一つ感じられないもの、知識はありそうだが、雑学的で体系だてられず、向上心にかけもの、入学時には高校受験に向けてそれなりのトレーニングを積んだものの、その後の学習のブランクで知識が定着しなかったものなどがあげられる。

選択科目と基礎学力の伸長の相関は、今回は十分検討することができなかった。また、滞在期間や滞在地については、基礎学力の伸長とあまり関連性がない。

（一柳、小澤）

表4-1 高校1年次と3年次における正答率の比較 (地理) 単位: %

問題の番号	日 本 人 学 校		現 地 校		全 国
	1年次	3年次	1年次	3年次	
1-1	61	61	39	39	66
2	50	56	25	33	43
3	61	67	36	42	61
4	39	39	33	25	47
2-1	78	83	50	56	73
2	72	78	47	72 ↑	79
3	11	39 ↑	19	31 ↑	25
3-1	56	44 ↓	16	28 ↑	34
2	78	89 ↑	58	72 ↑	73
3	78	89 ↑	53	83 ↑	87
4	72	94 ↑	53	78 ↑	56
4-1	100	89 ↓	64	83	76
2	50	44	33	19 ↓	61
3	94	94	86	81	89
4	67	72	44	50	72
5	100	100	83	72 ↓	90
5-1 A	44	61 ↑	19	11	49
1 B	100	89 ↓	72	78	95
1 C	89	83	61	86 ↑	84
2 D	56	78 ↑	19	31 ↑	55
正 答 率	68	72	46	54	66

↑印は正答率が1年次より10%以上、上回り、↓印は10%以上、下回る。

表4-2 高校1年次と3年次における正答率の比較 (歴史)

単位: %

問題の番号	日 本 人 学 校		現 地 校		全 国
	1年次	3年次	1年次	3年次	
6-1	72	67	44	44	50
2	72	83 ↑	25	36 ↑	62
3	72	56 ↓	42	50	42
4	72	83 ↑	53	64 ↑	76
5	28	50 ↑	28	20	38
7-1	72	39 ↓	31	31	56
2	56	28 ↓	14	17	32
3	39	44	11	64 ↑	40
4	28	28	19	22	24
5	67	50 ↓	28	42 ↑	48
8-1	72	78	61	56	76
2	72	83 ↑	36	56 ↑	64
3	61	72 ↑	44	36	69
9-1	89	83	39	50 ↑	65
2	39	39	50	28 ↓	49
3	44	28 ↓	42	42	42
10-1	67	72	39	58 ↑	74
2	22	28	6	19 ↑	22
3	56	50	67	61	51
4	78	78	36	47 ↑	71
正 答 率	59	57	36	42	35

↑印は正答率が1年次より10%以上、上回り、↓印は10%以上、下回る。



表4-3 高校1年次と3年次における正答率の比較 (公民)

単位：％

問題の番号	日本人学校		現 地 校		全 国
	1年次	3年次	1年次	3年次	
11-1 A	56	50	36	33	57
B	78	62 ↓	47	53	60
C	78	62 ↓	44	53	63
D	67	67	50	58	67
2	39	28 ↓	14	19	35
3 A	72	78	58	97 ↑	91
B	89	72 ↓	69	75	67
12-1	89	78 ↓	75	86 ↑	87
2	56	22 ↓	28	42 ↑	57
3	72	72	36	64 ↑	56
4	72	56 ↓	39	44	71
5 A	61	56	36	42	45
B	44	28 ↓	11	42 ↑	50
6	33	22 ↓	28	42 ↑	27
7	83	78	39	53 ↑	76
8 A	28	44 ↑	28	31	43
B	89	72	50	72 ↑	28
正 答 率	65	55 ↓	40	53 ↑	58

↑印は正答率が1年次より10%以上、上回り、↓印は10%以上、下回る。

表5 高校1年次と3年次における学力偏差値5段階評定の比較

単位：人

	地 理		歴 史		公 民	
	1年次	3年次	1年次	3年次	1年次	3年次
5	0	0	2	4	4	3
4	12	16	10	7	8	10
3	10	15	16	24	14	18
2	19	19	15	16	16	21
1	13	4	11	3	12	2

表-6 高校1年次と3年次における検査結果の比較—個別サンプル

	地 理	歴 史	公 民	2 年 次 選択科目	出 身 校 種	海 外 滞 在 期 間	海 外 滞 在 地
	1年→3年	1年→3年	1年→3年				
A	1 → 3 ○	1 → 3 ○	2 → 3	地 理	現地校	3年 0月	アメリカ合衆国
B	2 → 2	1 → 2	1 → 3 ◎	日 史	日本人	9 5	ポルトガル・ アルゼンチン
C	1 → 2 ○	2 → 3	1 → 2 ○	日 史	現地校	4 6	アメリカ合衆国
D	1 → 2 ○	1 → 1	1 → 1 ○	地 理	現地校	16 3	イ ン ド
E	1 → 3 ◎	2 → 3 ○	2 → 2	世 史	現地校	8 4	アメリカ合衆国
F	1 → 3 ◎	1 → 2	1 → 3 ○	世 史	現地校	8 2	アメリカ合衆国
G	1 → 1	2 → 3 ○	1 → 2 ○	日 史	現地校	3 0	アメリカ合衆国
H	2 → 4 ○	2 → 3 ○	3 → 4 ○	世 史	現地校	7 6	ベルギー・ アメリカ合衆国
I	2 → 4 ○	1 → 3 ○	3 → 3	世 史	現地校	4 1	アメリカ合衆国
J	4 → 4	5 → 3 ▲	4 → 4	地 理	日本人	6 8	ルーマニア・ ベルギー
K	4 → 4	5 → 4 ▲	5 → 4 レ	世 史	日本人	11 4	ブラジル
L	3 → 2 レ	4 → 5 ○	3 → 2 ▲	世 史	日本人	14 3	ベネズエラ
M	2 → 1 レ	1 → 2	2 → 1 ▲	世 史	現地校	4 7	アメリカ合衆国
N	3 → 2 ▲	3 → 3	3 → 2 レ	地 理	日本人	5 2	イギリス
O	4 → 4	4 → 3 ▲	3 → 2 レ	日 史	日本人	3 3	マレーシア
P	4 → 3 ▲	3 → 4	5 → 3 ▲	世 史	現地校	10 6	アルジェリア・ フランス・スイス

地理・歴史・公民の1年→3年の変化の数値は、学力偏差値5段階評定の数値

○印は正答率が20%以上上昇した場合、◎印は正答率が40%以上上昇した場合

▲印は正答率が20%以上下降した場合

レ印は正答率が下降した場合

#### 4. おわりに

高校生にとっての社会科の基礎学力とは何かという点を特定することは難しい。ましてや、様々な地域における異なった学校での学習歴をもつ帰国生の場合においては、なおさらその感が深い。今回、わたしたちが試みたことは、高等学校において帰国生に対する社会科の指導を進めていく上での一助とすべく、彼らが日本の教育課程の小・中学校段階における社会科の知識・理解の面で、どのような内容を身につけており、もしくは欠いているのかを知ることにあつた。このうち、新たにくわえた小学校段階の調査によって、現地校出身者の場合には、この領域の内容でも必ずしも十分な知識・理解をもちえていないことを確認した。

また、本校入学後の2年間の学習による知識・理解面での基礎学力の変化についても大まかな傾向をつかむことができた。すなわち、現地校出身者を中心とする小・中学校段階での社会科の基礎学力（知識・理解面）の底上げを含めて、地理・歴史・公民3分野ともにわずかながらの基礎学力の向上を見てとることができた。その反面、日本人学校出身者の一部に見られる基礎学力の下降傾向に対しては、いかに意欲をもたせ社会科の学習に取り組ませていくかが、課題のひとつとして明らかになった。なお、以上の基礎学力が本校での社会科の選択科目とどのように関連しているかという問題については、さらに事例研究を積みあげた上で、詳細な分析・検討を行っていきたいと考えている。

最後に、上で述べた社会科の基礎学力との関係から、本調査で利用した「中新S」「高入V」で取り上げることのできなかった内容について言及しておきたい。これらの調査では、地理・歴史・公民3分野ともに、小・中学校段階での基礎的事項についての知識・理解を中心に問題が構成されていたといつてよい。したがって、そこでは、当然のように、生徒の主体的な学習を形成する上で重要な興味・関心や意欲、資料活用能力などを明らかにするといった点では、必ずしも十分な内容のものではなかった。これらもまた社会科の基礎学力の一部であることは確かである。したがって、これらを含め、社会科の基礎学力をどのように評価し、かつ伸長させていくかということを、あらためて考えていかなければならない。すなわち、知識・理解は未だ不十分であっても、自ら学んでいこうとする意欲や姿勢、それを支える興味・関心の喚起や持続といった面もまた十分考慮していかなければならないし、それらを積極的に評価していく必要があるといえよう。これらのことをもふまえつつ、さらに社会科の基礎学力とは何かということを問い直しながら、帰国生に即した指導を模索していきたい。

(町田)

(中学新1年社会 S形式)

第1部

地理的分野

時間 9分

1 次の文中の10か所の下線を引いた部分のうち、まちがっているものを五つ見つけなさい。

- 日本は、海に囲まれ、東側の海は日本海と呼ばれている。
- 日本は、世界でも有名な、火山の多い国で、そのために温泉も多いが、地震も多い。
- わが国を流れる川は急流で長く、農業や工業、水力発電、飲み水などに利用されている。
- 利根川は、わが国の平野の中で最も広い濃尾平野のほぼ中央を流れている。
- 日本の近くには、黒潮と呼ばれる対馬海流と、親潮と呼ばれる千島海流が流れており、よい漁場となっている。
- 本州の中央部は、3000 m 以上の高い山が連なり、日本の屋根といわれている。
- 日本を大きく八つの地方に分けると、北海道、東北、関東、東海、近畿、中国、四国、九州となる。

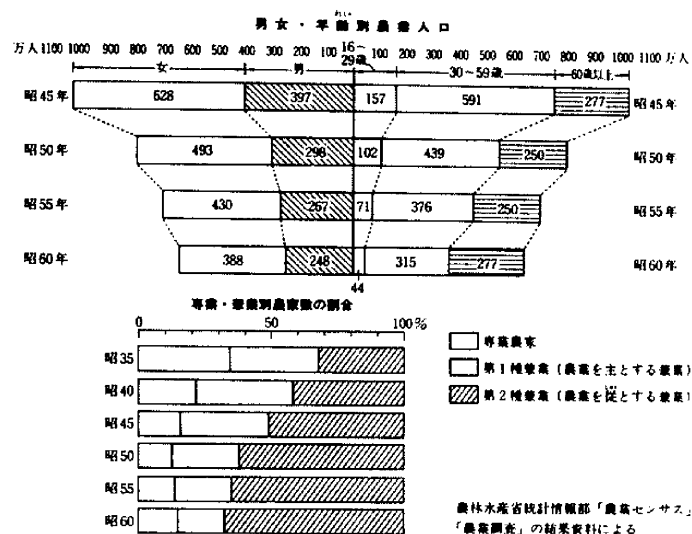
2 次の1～5の農産物について、それぞれ{ }の中に、生産高の多い県や道があげてあります。この中から、それぞれ一つずつ、適当でない県や道を選びなさい。

- 1 きつまいも { ア 茨城 イ 千葉 ウ 鹿児島 エ 北海道 }
- 2 米 { ア 新潟 イ 沖縄 ウ 山形 エ 秋田 }
- 3 りんご { ア 岩手 イ 青森 ウ 宮崎 エ 長野 }
- 4 キャベツ { ア 高知 イ 長野 ウ 群馬 エ 千葉 }
- 5 みかん { ア 佐賀 イ 茨城 ウ 愛媛 エ 静岡 }

3 次の1～4に関係の深いものを、右のア～オの中から一つずつ選びなさい。

- |          |             |
|----------|-------------|
| 1 沖合漁業   | ア のり・かき・真じゅ |
| 2 沿岸漁業   | イ タンカー      |
| 3 養しよく漁業 | ウ 北洋漁業      |
| 4 遠洋漁業   | エ 兼業農家      |
|          | オ 漁家の共同船    |

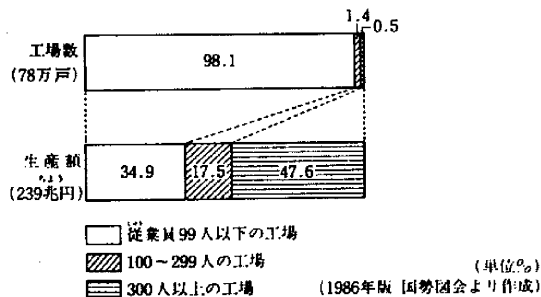
4 次のグラフを見て、下のア～コの中から正しいものを五つ選びなさい。



- ア 農業人口に占める60歳以上の人の割合は少なくなってきている。
- イ 全農家数に占める第2種兼業農家数の割合が増えてきている。
- ウ 昭和45年から50年にかけて農業人口が大きく減少しているのは、米の不作が続き農業離れ現象が起きたためである。
- エ 兼業農家から専業農家になっていく傾向がはっきりみられる。
- オ 昭和60年でみると、わが国の農業人口は、総人口の5パーセントあまりである。
- カ 全農家数の中で、専業農家の占める割合は、昭和50年までは減りつづけたが、それ以後は減少していない。
- キ 農業に従事している人々の中で、若い人たちは少なくなってきている。
- ク 第2種兼業農家の割合の増加にともない、農業人口は増えてきている。
- ケ 農業をする人は、女の人のほうが多く、男の人の1.5倍以上いる。
- コ 昭和45年の農業人口は60年の2倍以上あった。

- 5 下の1～3の文は、次のA、Bのどちらの資料からいうことができますか。

A 大きさからみた工場数・生産額の割合



B 工場の大きさとおもな製品

● 大工場で生産されるものの例

鉄鋼  
 船  
 自動車  
 化学製品  
 輸送用機械  
 電気機器

● 中・小工場で生産されるものの例

木材・木製品  
 食料品  
 陶磁器  
 おもちゃ  
 雑貨

- 中・小工場の製品は、どちらかといえば軽工業的なものが多い。
- 生産額からみると、日本の工業はひとにぎりの大工場の力に左右されているようだ。
- 大工場は、金属や機械工業に多いようだ。

第2部

歴史的分野

時間20分

- 6 次のことばの説明として正しいものを、それぞれア～ウの中から一つずつ選びなさい。

- 古事記

  - ア 国々が、その地方のようすや伝説についてまとめた書物。
  - イ 天皇や貴族の歌のほか、農民などの歌も収めた歌集。
  - ウ 古くから伝わる神話や物語をまとめ、天皇の祖先などのことについて書いた書物。
- 慶應義塾

  - ア 大名にかわって知事が藩の政治を進めること。
  - イ 江戸時代の藩をやめて、新たに県を置くこと。
  - ウ 明治政府の役人が、政治を進めること。
- 源氏物語

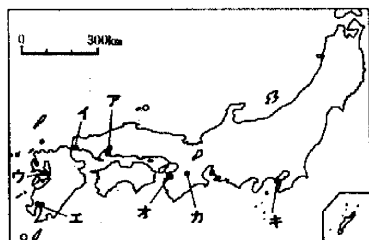
  - ア 鎌倉幕府を聞いた源頼朝の一生について書かれた物語である。
  - イ 平安貴族の生活や心のようなすが、かな文字で書かれた物語である。
  - ウ 江戸時代の武士たちが愛読した武芸書である。
- 長祿の戦い

  - ア 豊臣秀吉が、織田信長をほろぼした明智光秀をやぶった戦いである。
  - イ 織田信長が鉄砲隊をつくり、武田の騎馬隊をやぶった戦いである。
  - ウ 京都が戦場となり、やがて全国を戦国時代へとまきこんでいった戦いである。

- 7 次の1～5の文のそれぞれについて、関係の深い土地を下の地図の中から、また、最も関係の深い人物を□の中から、それぞれ一つずつ選びなさい。

- はなやかな生活を続けた平氏も、頼朝の弟を大将とする軍と戦った結果、この地方でほろぼされた。
- アメリカの軍艦を初めて見た人々は、「黒船が来た」と大さわぎをした。

- 3 重い税と、キリスト教へのきびしいとりしまりにがまんできなくなった信者の農民は、この地方で乱を起こした。
- 4 仏教が深く信じられていたこのころは、この地方に法隆寺が建てられ、このころのすぐれた文化のようすを伝えている。
- 5 1549年、この地方にきたスペインの宣教師によって、初めてキリスト教が伝えられた。



- ア 徳川家光  
イ 天草四郎時貞  
ウ 源 義経  
エ ハリス  
オ 聖徳太子  
カ フランシスコ＝ザビエル  
キ ベリー

- 8 次の1～5の人物に関係のある時代をAから、関係の深いことからBから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- 1 伊能忠敬  
2 紫 式部  
3 伊藤博文  
4 聖武天皇  
5 足利義満

- A  
ア 奈良時代  
イ 平安時代  
ウ 室町時代  
エ 江戸時代  
オ 明治時代  
カ 昭和時代

- B  
ア 最初の内閣総理大臣  
イ 日本地図  
ウ 源氏物語  
エ 金 閣  
オ 東大寺・圓分寺  
カ 平等院

- 9 次の文の□の中にあてはまる地名を、下のア～クの中から一つずつ選びなさい。

- 1 今から1800年ほど前に米づくりを行っていた村のあとが、静岡県の□で発見された。
- 2 秀吉は、□に城を築いて、そこを中心に政治をした。
- 3 1901年、北九州の□に官営の製鉄所がつくられ、仕事が始まった。
- 4 1951年、日本は□で48の国と平和条約を結び、独立国となった。

- ア ボーツマス    イ ボツダム    ウ サンフランシスコ    エ 東京  
オ 大阪    カ 名古屋    キ 貴陽    ク ハ横

- 10 次の文にあてはまる国を、それぞれア～エの中から一つずつ選びなさい。

- 1 第二次世界大戦で、日本と軍事同盟を結んだ国の一つ

- ア アメリカ合衆国  
イ ソビエト連邦  
ウ イタリア  
エ イギリス

- 2 大和時代から平安時代にかけて、日本がそのすぐれた文化をとり入れた国

- ア イギリス  
イ フランス  
ウ インド  
エ 中 国

- 3 大日本帝国憲法をつくるとき、最も日本の手本とされた国

- ア アメリカ合衆国  
イ ドイツ  
ウ イギリス  
エ フランス

- 4 領国を行った江戸幕府が、長崎の出島でわずかに貿易をゆるした国の一つ

- ア スペイン  
イ ポルトガル  
ウ フランス  
エ オランダ

- III 次の文の人々は、どの時代に生きていたと考えられますか。下のア～コの中から正しいものを一つずつ選びなさい。

- この時代に行われた刀狩によって、農民たちは武器を失い、武士とはっきり区別されるようになった。
- 家柄と呼ばれた権力者たちは、自分の力の偉大さをしめすため、大きな古墳を作らせるようになった。
- 長い間、小作人として苦しんできた農民たちは、農地改革の結果、自分の土地をもつことができるようになった。
- 都の人々がはなやいだくらしを楽しんでいる一方で、地方の政治は乱れ、益ぞくが増え、土地をめぐる争いもたえず起こるようになった。やがて、各地の豪族たちは、武器をどって自分の力で自分の土地を守るようになった。
- 新しくできた政府は、それまでの士農工商という身分制度を廃止した。人々はみなみょう字を名のり、住所や職業も自由に選べるようになった。

- |        |          |
|--------|----------|
| ア 大和時代 | イ 奈良時代   |
| ウ 平安時代 | エ 鎌倉時代   |
| オ 室町時代 | カ 安土桃山時代 |
| キ 江戸時代 | ク 明治時代   |
| ケ 大正時代 | コ 昭和時代   |

- 12 次の文の( )の中から、正しいものを一つずつ選びなさい。

- 1 自由民権運動を進めた人は、 2 前野良沢らとともに、解體新書をあらわした人は、

- ア 坂垣退助  
イ 西郷隆盛  
ウ 吉田松陰  
エ 井伊直弼

である。

- ア 大塚平八郎  
イ 青木昆陽  
ウ 杉田玄白  
エ シーボルト

である。

- 3 参勤交代の制度を確立させた人は、 4 元寇のとき、日本の武士をひきいた人は、

- ア 徳川家康  
イ 徳川秀忠  
ウ 徳川家光  
エ 徳川吉宗

である。

- ア 平 清盛  
イ 源 頼朝  
ウ 北条泰時  
エ 北条時宗

である。

### 第3部 公 民 的 分 野 時間16分

- 13 次の1～3について、そのはたらきを述べた文を、下のア～キの中から、それぞれ二つずつ選びなさい。

- 1 国会 2 内閣 3 裁判所

- ア 内閣総理大臣を指名する。  
イ 法律が憲法に違反していないかを審査する。  
ウ 法律案を審議し、議決する。(法律をつくる。)  
エ 法律や予算にしたがって、実際に政治を進めていく。  
オ 予算案を作成する。  
カ 裁判をしながらい国民の権利を守る。  
キ 国務大臣を任命する。

- 14 次の文の中から政治のはたらきを三つ選びなさい。

- ア 新しい自動車を出すための宣伝をする。  
 イ 収入が少なく困っている人を助ける。  
 ウ デパートの大売り出しの計画を立てる。  
 エ カラーテレビをたくさん生産する。  
 オ 公害をふせぐためのきまりをつくる。  
 カ 子どもたちのためにお菓子工場をたくさんつくる。  
 キ 交通事故がおきないように、道路を広げたり、歩道橋をつくったりする。

- 15 日本国憲法の三つの原則といわれるものは、次のどれですか。一つ選びなさい。

- ア 基本的人権の尊重 と 平和主義 と 天皇主権  
 イ 基本的人権の尊重 と 民主主義 と 天皇主権  
 ウ 基本的人権の尊重 と 民主主義 と 国民主権  
 エ 基本的人権の尊重 と 平和主義 と 国民主権

- 16 次の1～5の文について、国民の権利を述べているものはア、国民の義務を述べているものはイ、どちらでもないものはウにマークしなさい。

- 1 20歳以上の国民はだれでも国会議員の選挙に投票できる。  
 2 国民は税金を納めなければならない。  
 3 国民は、同じように教育を受けることができる。  
 4 国民は自分の好きな職業を選ぶことができる。  
 5 国民は自分の好きな場所で野球をすることができる。

- 17 次の文の1～4の( )にあてはまる語句を、下の□の中から一つずつ選びなさい。ただし、同じ番号の( )には同じ語句があてはまります。

- わたくしたちは、主権者として、政治に参加することができる。一定の年齢になると、(1)や地方議会の議員の(2)に立候補したり、投票したりすることができる。
- 政治の進め方について、同じ考えをもつ人たちが集まり、(3)をつくり、(2)で自分たちの考え方を国民にうたえる。
- わたくしたちは、(2)で選んだ議員にすべてをまかせてしまうのではなく、(4)を高めたり、住民運動にうたえたりすることもできる。

- |       |      |
|-------|------|
| ア 世論  | イ 選挙 |
| ウ テレビ | エ 公害 |
| オ 新聞  | カ 国会 |
| キ 政党  |      |

- 18 次の文にあてはまる国際連合の機関を、下の□の中から一つずつ選びなさい。

- 1 アメリカ合衆国、ソビエト連邦、イギリス、フランス、中華人民共和国の5か国が、拒否権という大きな力をもっている。  
 2 本部をバリにおいて、世界の教育・科学・文化の向上につくしている。  
 3 各国から集められた金をもとに、世界の不幸な子どもたちを、救う運動をおし進めている。

- ア 安全保障理事会  
 イ 国際労働機関  
 ウ ユニセフ  
 エ 国際司法裁判所  
 オ 経済社会理事会  
 カ ユネスコ  
 キ 総会



- 19 次の1～5はどの国について述べていますか。あてはまる国の名を下のア～オから、その国の位置を下の地図のA～Eから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- わが国の貿易の相手国で、輸出額、輸入額ともに最も多い国。
- わが国とは古くから行き来があり、一時とだえていた国交が回復し、貿易もさかんになってきた国。
- 北方領土、北洋漁業など、わが国とは未解決の問題が多く残されている国。
- わが国が羊毛や肉類などを多く輸入している国。
- 石油を大量に産出し、わが国がそれを多く輸入している国。

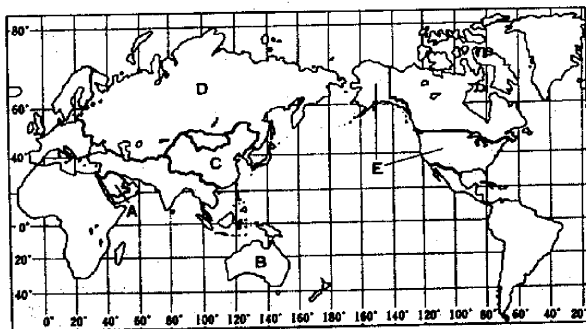
ア オーストラリア

イ ソビエト連邦

ウ サウジアラビア

エ アメリカ合衆国

オ 中華人民共和国



## (高校新入生学力検査 社会)

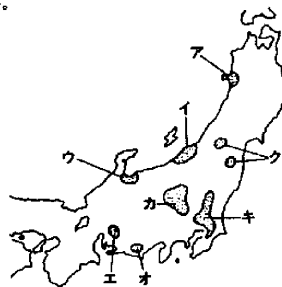
### 第1部

### 地理的分野

時間 16 分

- 1 右の地図に示した地域は、農業のうえで特色がみられます。次の各文を読んで、当てはまる地域を地図中のア～クから選びなさい。

- 温暖な気候と水はけのよい丘陵地や台地を利用して、茶とみかんが栽培されている。
- この地域の台地では、野菜・さつまいも・たばこ・らっかせいなどが栽培され、低地では水田が広がっている。
- 盆地や高原の気候をいかして、はくさい・キャベツ・レタスなどを栽培し、他の産地と時期をずらして出荷することで知られている。
- かつては灌漑地帯であったが、河川の分水路工事や排水施設による乾田化が進み、稲作が盛んである。



- 2 右のA・Bのグラフについて、各問に答えなさい。

グラフA (数字は%)

京 浜 9 51 11 8 20

阪 神 20 32 13 10 6 19

中 京 12 54 8 7 5 14

北九州 21 26 11 17 2 23

a b c d その他

重化学工業 軽工業

グラフB 南アフリカ アフリカ

39 24 18 5 10

オーストラリア ブラジル インド その他

(89年版 日本国勢協会より)



- 日本の工業について説明した次の文の中で、正しくないものを1つ選びなさい。
  - ア 阪神工業地帯の生産額は、戦前の四大工業地帯の中では第1位であったが現在は第2位である。中小工場が多い。
  - イ 太平洋ベルトの工業生産額は、日本全体の中で90%以上を占めることになった。
  - ウ 日本の製鉄工場のほとんどは、原料輸入の関係から、瀬戸内海沿岸や太平洋側にある。
  - エ アメリカや西ヨーロッパ諸国からは、日本に対して、工業製品の輸出を少なくし、農産物や原料・工業製品の輸入を多くするように求められている。

3 右のヨーロッパの地図について、各問いに答えなさい。

1 わが国の最北端は択捉島ですが、その位置は、ヨーロッパではどのあたりになりますか。次から選びなさい。

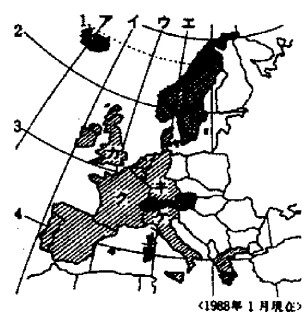
- { ア 1と2の間      イ 2と3の間  
ウ 3と4の間      エ 4より南 }

2 本初子午線(経度0°)は地図中のア～エのどの線になりますか。地図中から選びなさい。

3 右の地図中の  は、ヨーロッパ諸国が相互に結んだ3つの組織を示しています。その中で、 の組織は次のどれですか。

- { ア NATO      イ COMECON      ウ EFTA      エ EC }

4 右の表グラフは、ヨーロッパのある国から日本への輸出品品別(金額比)に示したものです。当てはまる国を地図中のカーケから選びなさい。



輸出品品別(金額比)			
自動車	機械類	その他	有機薬品
26.3	21.9	34.2	6.8
医薬品	精密機械		
7.7	3.1		

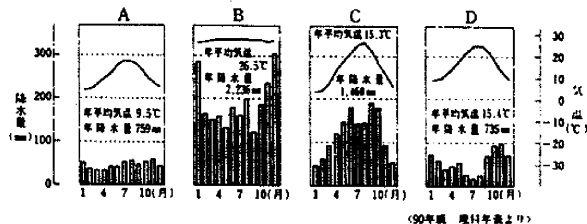
(1987年) (89年版 日本国勢協会より)

4 次の各文は、どこの国を説明したものか、下からそれぞれ選びなさい。

- ヒマラヤ山系から流れる川の中・下流にはよく肥えたヒンドスタン平野が広がり、米作の盛んな地帯となっている。三角州地帯はジュートの世界的な産地となっている。また、工業化を進めているが、地主制やカースト制のため近代化が遅れている。
- 第二次世界大戦後の内戦をへて、新しい国づくりが進められ、社会や産業のしくみが変化した。日本は、この国と1972年に国交を正常化し、1978年には平和友好条約を結んだ。これ以来、両国の結びつきは強まっている。対日貿易の最大輸出品は石油である。
- この国では、コーヒー・だいず・さとうきびなどを栽培して、単一生産にたよる不利益を解決するための努力をしている。また、外国の資本も入れて、鉄鋼や自動車などの工場をつくり近代化を進めている。
- ラブラタ川流域にあるこの国は、パンパとよばれる草原が広がっている。気候条件もよく、農業・牧畜が盛んで、小麦・肉類の多くをヨーロッパに輸出している。
- ダイヤモンドや金を産出する国として有名である。鉱山や農園で働く労働者の大部分は黒人であるが、白人の黒人に対する人種差別がひどく、黒人による反対運動が盛んである。

- { ア 朝鮮民主主義人民共和国      イ アルゼンチン      ウ インド  
エ ブラジル      オ エジプト      ケ 中華人民共和国  
キ 南アフリカ共和国      ク リベリア      ケ パキスタン  
コ 中国 }

5 世界の気候について、次の気候グラフに関する各問いに答えなさい。



1 上の気候グラフA・B・Cの地域の特徴に深い文を、次からそれぞれ選びなさい。

- { ア 量が短く寒さのきびしい長い冬と、量が長く気温も割合に高くなる短い夏があり、針葉樹の大森林が広がっている。  
イ 偏西風と海流の影響で、同じ緯度の大陸の東岸とくらべて温和な気候である。  
ウ 乾燥帯で、岩石が砂ばかりの砂漠が広がっている。  
エ 季節風の影響を受けて、降水量は夏に多く、冬は少ない。米作が盛んである。  
オ 赤道をはさんだ地域は年中雨が多く、常緑広葉樹の密林が多く見られる。

2 上の気候グラフのDに深い関係深い農作物群を、次から選びなさい。

- { ア ぶどう・オレンジ・オリーブ      イ コーヒー・さとうきび・サイザル麻  
ウ カカオ・ゴム      エ てんさい・じゃがいも }

## 第2部

## 歴史的分野

時間 16分

6 次の和歌や狂歌を読んで、各問いに答えなさい。

- A 旅や知る 都は野への 夕ひばり 上がるを見ても 落つる涙は  
B この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも なしと思へば  
C 笑の原 ふりさけみれば 春日なる 三笠の山に いでし月かも  
D 藤原の おむりをさます 上皇様 たった四はいで 夜もねられず  
E 白河の 清き流れに 住みかねて にごれる田沼 いまは恋しき

1 Aは、次のどの戦乱をうたったものですか。

- { ア 壬申の乱      イ 保元平治の乱      ウ 元弘平治の乱      エ 承久の乱 }

2 Bがうたわれたころの政治は、次のどれですか。

- { ア 執權政治      イ 摂関政治      ウ 院政      エ 幕藩政治 }

3 Cは、中国に留学した阿倍仲麻呂の歌ですが、当時の中国は次のどれですか。

- { ア 明      イ 隋      ウ 宋      エ 唐 }

4 Dのようにうたわれたできごとの関係している人物は、次のどれですか。

- { ア ハリス      イ ラクスマン      ウ シーボルト      エ ベリー }

5 Eがうたわれたころは、次のどの時期ですか。

- { ア 17世紀後半      イ 18世紀前半      ウ 18世紀後半      エ 19世紀前半 }

7 次のわが国のできごとと、世界のできごととの時間的関係について各問いに答えなさい。

- わが国に仏教が伝わったころより以前のできごとを、次から選びなさい。
 

ア 隋が滅び、唐がおきた。	イ 十字軍の遠征が始まった。
ウ ゲルマン民族が移動を始めた。	エ マホメットがイスラム教を説いた。
- 足利義満が幕府を室町に移したころのできごとを、次から選びなさい。
 

ア 倭寇が明や高麗に侵出した。
イ コロンブスが新大陸を発見した。
ウ マルコ・ポーロが「東方見聞録」をあらわした。
エ チンギス・ハンがモンゴルを統一した。
- 鎖国が完成した時より以前のできごとを、次から選びなさい。
 

ア イギリスで産業革命が始まった。	イ アメリカが独立を宣言した。
ウ ルターが宗教改革を行った。	エ フランス革命がおこった。
- 「五箇条の御誓文」がだされた年より以後のできごとを、次から選びなさい。
 

ア 清教徒革命や名誉革命がおこった。	イ アメリカで南北戦争が始まった。
ウ ドイツ帝国が成立した。	エ 中国で清がおこり、明が滅んだ。
- 米騒動がおこった年より以前のできごとを、次から選びなさい。
 

ア ベルサイユ条約が結ばれた。	イ 中華人民共和国が成立した。
ウ 国際連盟が成立した。	エ ロシア革命がおこった。

8 次の1～3の事から最も関係の深い文を、それぞれ選びなさい。

- 土器
 

ア 縄文時代の人々が作った素焼きの土器で、墓の周りに置かれた。
イ 弥生時代の遺跡から発掘された青銅製の武器。
ウ まよけやまじないに使ったと考えられる土製の人形。
エ 古墳のまわりなどに置かれた素焼きの土器で、人物・動物や円筒形のもの。
- 絵巻
 

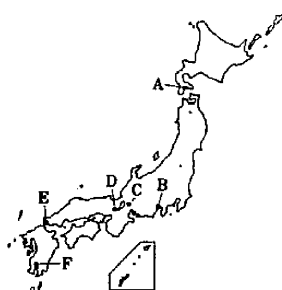
ア 鎌倉時代におこった写実的な肖像画で、代表作として「源頼朝像」がある。
イ 西洋の遠近法や陰影法をとり入れた肖像画である。
ウ 雄大な城や建物の内部をかざったふすま絵である。
エ 物語と結びつけて、その内容を美しく描いた絵である。
- 蔵屋敷
 

ア 両替商や大商人などの屋敷。
イ 諸藩が年貢米や特産物を販売するために、江戸や大阪に設けた屋敷。
ウ 諸藩が江戸に設けた家臣のための屋敷。
エ 商人や手工業者たちで組織した同業組合の屋敷。

9 右の地図に示したA～Fの地について、AとB、CとD、EとFの両方を正しく説明しているものを、それぞれア～ウから選びなさい。

1 AとB

- |   |  |
|---|--|
| ア | キリスト教徒や農民は、幕府や領主の <sup>幕府</sup> に対して立ち上がったが、この地で破れた。 |
|   | この地の古墳の <sup>古墳</sup> から、7～8世紀のわが国の貴族の服装が明らかにになった。   |
| イ | この地は、日米和親条約によって開港した。                                 |
|   | この地の発掘により、弥生時代の集落と水田のようすが明らかにになった。                   |
| ウ | 鳥羽・伏見の戦いに始まった戊辰戦争は、この地の戦いで終わった。                      |
|   | この地で発見された打製石器によって、わが国の旧石器時代が存在が確認された。                |



2 CとD

- |   |   |
|---|---|
| ア | 彼は <sup>源氏</sup> 源氏ゆかりのこの地に入り、政権の確立につとめた。大澤入道 <sup>大澤入道</sup> は、この地に都を移して正式に即位し、天武天皇となった。 |
| イ | この地での戦いは、全国が東西に分かれて戦い、「天下分け目の戦い」といわれた。  |
|   | 桓武天皇は、人心の一新をはかり、古い伝統をもつ地から都をこの地に移した。  |
| ウ | 織田・徳川連合軍はこの地で <sup>徳川</sup> 徳川軍を使って武田軍を破った。   |
|   | 推古天皇は <sup>聖徳太子</sup> 聖徳太子の援助を得て、この地に壮大な都をつくった。   |

3 EとF

- |   |  |
|---|--|
| ア | ここで降伏文書に署名したわが国は、連合国軍の占領政策下に入るようになった。              |
|   | 彼はこの地に医師として来日し、 <sup>蘭学</sup> 蘭学をつくり多くの日本人に蘭学を教えた。 |
| イ | この地で条約を結んだが、まもなく露・仏・独の三国から条約に対して干渉された。             |
|   | 彼はたびたび渡航に失敗し、失明してからこの地に来航し、新しい仏教を広めた。              |
| ウ | この地で結んだ条約により、わが国の朝鮮半島への進出が決定づけられた。                 |
|   | 彼はマラカで会った日本人のすすめでこの地に来航し、キリスト教を伝えた。                |

10 右の略年表を見て、各問に答えなさい。

1 ⑤の時期に当てはまることを選ばない。

- ア 郵便制度が整えられた。  
イ 八幡製鉄所が開業した。  
ウ 好景気になり、重化学工業が発達した。  
エ アメリカ合衆国につく経済大国になった。

2 ⑥の時期に当てはまることを選ばない。

- ア ニ・二六事件 イ 国際連盟脱退  
ウ 日英同盟を結ぶ エ ワシントン会議

3 次の世界の国々の中で、⑦の時期に当てはまることを選ばない。

- ア イタリア・フランスは、本国と植民地との貿易を拡大するブロック経済を行った。  
イ ソ連は、レーニンの指導のもとに、5か年計画を行い、産業を発達させた。  
ウ アメリカ合衆国は、世界恐慌の影響を受けずに、重化学工業が発展を続けていた。  
エ ドイツでは、ヒトラーが資本家や軍部の支持を得て、独裁政治を始めていた。

4 ⑧の時期に当てはまることを選ばない。

- ア 生糸による製糸業が急速に発達し、アジア大陸への貿易が拡大された。  
イ 三井・三菱・安田・住友などの財閥が、綿産業を支配し始めた。  
ウ 経済の高度成長政策により重化学工業は発達したが、公害問題がおこってきた。  
エ 世界の動きから離れ、独自に海運業や諸産業が発達したが長続きはしなかった。

	政治・外交	産業・経済
明治	金銀戦争 日清戦争 日露戦争	第一次産業革命 第二次産業革命 ④
大正	第一次世界大戦 第二次世界大戦	大戦による好景気 戦後恐慌 ⑤
昭和	満洲国樹立 日中戦争 第二次世界大戦	世界恐慌 ⑥
平成	日本国憲法 国連加盟	⑦ ⑧

### 第3部

### 公民的分野

時間 13分

11 右の経済活動（物や貨幣の動き）に関する図

を見て、各問に答えなさい。

1 下のA～Dの各文にあてはまるものを図

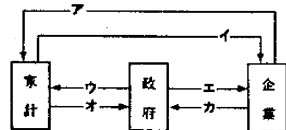
- 中のア～カから1つずつ選ばない。  
A 貸金や公的扶助などの支払い。  
B 法人税の納付。  
C 貸金・利子・株の配当金などの支払い。  
D 所得税の納付。

2 政府は、道路や港湾の整備などのために財政投融资を行います。この投融资に利用されるものを次から選ばない。

- （ア 銀行預金 イ 郵便貯金 ウ 社債 エ 私鉄運賃）

3 次の文の（ ）に当てはまる語句を下の（A）、（B）から、それぞれ選ばない。  
外国の通貨に対して、日本の円の値が下がったり、上がったりすることを円安とか円高とかいいます。たとえば、1ドル130円であった（A）が1ドル150円になれば、（B）といひ、輸入品の値段がそれだけ高くなります。

- （A）ア 為替相場 イ 企業相場 ウ 貨幣相場  
（B）ア 円安 イ 円高 ウ ドル安



12 日本国憲法や政治のしくみについて、各問に答えなさい。

1 次のア～エの文で、自由権に当たるものはどれですか。

- ア 人種・信条・性別・社会的身分又は門地により……差別されない。  
イ 学問・信教・集会・結社・表現・職業選択……などに関するもの。  
ウ 「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」  
エ 国道のかげくずれて事故にあった人が、国に責任があるとして賠償を請求した。

2 次の基本的人権のうち、20世紀的権利といわれるのはどれですか。

- （ア 自由権 イ 平等権 ウ 参政権 エ 社会権（生存権））

3 被選挙権が30歳以上でなければならないのは、次のどれですか。

- （ア 知事と市町村長 イ 参議院議員と知事  
ウ 参議院議員と市町村長 エ 衆議院議員と市町村議会議員）

4 日本の政治は三権分立のしくみになっていますが、立法と司法の関係は次のどれですか。

- （ア 裁判官の任命 イ 国民審査  
ウ 違憲政令審査権 エ 違憲立法審査権）

5 国会の種類で、⑨臨時会と⑩特別会に当たるものを、次からそれぞれ選ばない。

- （ア 内閣が必要と認めたとき、いずれかの議院の総議員の $\frac{1}{4}$ 以上の要求があったとき。  
イ 衆議院の解散中に、内閣が必要と認めたとき。  
ウ 毎年1回、12月中に召集されるもので、会期は150日間である。  
エ 衆議院解散後の総選挙の日から30日以内に召集される。

6 次のことの中から、衆議院の優越が認められていないのはどれですか。

- （ア 憲法改正の発議 イ 予算の議決 ウ 条約の承認 エ 法律の制定）

7 裁判制度で第二審の判決に不服のとき、第三審の裁判を求めることを何といいますか。

- （ア 上告 イ 控訴 ウ 告発 エ 審判）

8 地方自治について、次のA、Bの問に答えなさい。

A 地方議会の解散を選挙管理委員会に請求する場合は、その地域の有権者に対してどれだけの有権者の署名が必要ですか。

- （ア 全員 イ  $\frac{1}{2}$ 以上 ウ  $\frac{1}{3}$ 以上 エ  $\frac{2}{3}$ 以上）

B 次の各文の中から、正しいものを1つ選ばない。

- （ア 地方議会は、憲法や法律に関係なく条例を制定することができる。  
イ 地方公共団体には、国と同じく立法、司法、行政の機関がある。  
ウ 地方政治に必要な財源は、すべて地方税によってまかなわれている。  
エ 地方公共団体の首長は、地方住民の直接選挙によって選ばれる。